

本町では、次の10年に向けて「第2次飯南町総合振興計画」を策定しました。平成28年度から将来像「笑顔あふれるまち飯南町」の実現に向けて、取り組みをスタートさせます。

「地方創生」の取り組みは、いよいよ本格化します。当初予算の地方創生関係予算は、4分野28項目80事業、総額で約9億円を計上しました。中でも「子ども子育て」「出会い創出」「女性活躍社会の実現」「若者の交流の場づくり」「若者の創業支援」などの推進のため、「飯南町若者・女性応援基金」を創設します。平成31年度までに総額1億円を目標に積み立て、各事業に活用します。

その他、本年度は多くの計画が始まる年でもあります。5月下旬には新庁舎が完成し、業務を開始します。

私は、町長就任にあたり、「雇用を増やす」「子どもを増やす」「安心な暮らしを守る」の3つの目標を掲げました。「地方創生」という時代の要請と重なりましたが、取り組みにゴールはなく、更なる加速、強い姿勢が必要です。そして、それは、町民、議会、行政が、正に三位一体となって初めて為し得るものです。元気で優しい町づくりに向けて、一丸となって取り組みましょう。

町長施政方針

笑顔あふれる町づくり

飯南町長 山崎 英樹



主要施策 産業

- 農業の振興
 - 観光の振興
 - 商工業の振興
- 水田農業は、「いいなん米」の品質向上、「良質米の産地」としての知名度向上により、有利販売、ブランド化に繋がります。また、「飯南町1農場1担い手」の実現に向けて、農業の担い手確保対策に取り組めます。
- 園芸振興では、園芸作物の生産拡大と新規就農者の支援を推進し、所得向上を目指します。また、「園芸用ハウス整備支援制度」を創設し、ハウスの新設やリフォーム希望者を支援します。
- 畜産振興では、和牛の繁殖牛導入や指定交配などの支援、また、全国和牛能力共進会に向けて優良牛の育成、確保を推進します。
- 林業振興では、作業路の整備や間伐、新植などを計画的に実施します。また、鳥獣被害防止対策は、県、町猟友会と協力して捕獲体制を強化し、捕獲奨励金の増額や防護柵の設置、捕獲器導入を進めます。
- 昨年6月に観光協会を設立しました。観光動態調査による入込客数は、対前年比4.1%増の30万5千人強となり、成果が上がっています。今後も観光協会を中心に、町ぐるみで、町の魅力を体験できる場の創出、情報発信を進めます。
- 商工業の振興では、若者などに魅力がある新たな「しごと場」の創出や、後継者の育成・確保を進めます。また、創業前から創業後まで、各関係機関の強みを活かした支援を行います。



主要施策 自治・協働

- 協働のまちづくりの推進
 - 地域おこし協力隊・集落支援員の充実
 - 健全で効率的な行政運営の推進
 - 職員の資質の向上
 - 小さな拠点の形成
- 協働のまちづくりの推進は、地域おこし協力隊は、地域の活性化を、集落支援員は、地域の見守り役、地域課題の解決などに取り組んで頂きたいと考えています。
- 頓原公民館を含む複合施設は、利用者自らが提案した計画・設計とし、新年度予算に建設費を計上しました。来島地区の拠点整備は、地域の皆さんとそのあり方について検討を始めたいと考えています。



主要施策 教育・文化・子育て

- 子育てしやすい環境づくり
 - 縁結びの支援
 - 保小中高が連携した教育の充実
 - 飯南高校支援
 - 地域で育む教育環境づくり
 - 公民館活動の支援
 - 人権意識の啓発
- 子育てしやすい環境づくりは、保小中高が連携した教育の充実、飯南高校支援、地域で育む教育環境づくり、公民館活動の支援、人権意識の啓発、出産祝金や子育て協力企業への支援制度を創設、保育料は減免の対象範囲を拡大させます。縁結び支援として、結婚祝金、民間ブライダル事業への登録費助成などの制度の創設。各支援団体と連携してイベントを開催して出会いの場をつくります。
- 教育では、学校、教育委員会、地域住民、関係団体、行政が一体となって、「保小中高一貫教育」を推進し、町の将来を担う人材を育てます。また、先進的教育手法を取り入れて、教育の質の向上に取り組みます。
- 本町のまちづくりや子育て世代の定住に飯南高校の存在は更に膨らんできているため、高校の魅力化にも全力で取り組みます。

主要施策 保健・福祉

- 健康づくりの推進
 - 地域医療の充実
 - 地域福祉の充実
 - 高齢者などにやさしい環境づくり
- 「健康(まめ)ないなん21」の基本目標に沿って、一人ひとりが、地域活動の中で健康づくりの意識を高められるよう支援を行います。健診受診率の向上は、声かけなどによる啓発を進めます。
- 保健・医療・介護・福祉の連携による、地域包括ケアの体制を強化し、高齢者や障がいのある人が、安心して生活を続けられるように、さらには、社会参加できる機会も確保していきます。

主要施策 生活環境

- 定住の促進
 - 地域公共交通対策
 - 簡易水道・下水道の整備
 - 道路網の整備
 - 国道54号活性化対策
 - 公営住宅の整備
 - 消防施設の充実
- 定住の促進は、第4回日本住みたい田舎ベストランキングで、本町は全国第7位、中国地方では第2位となりました。昨年度の定住支援センターを通じたU・イターン者数は40名で、相談件数の増加に比例して、U・イターン者も増えていることから、Uターン者を迎え入れる集落への支援や町外へ通勤するU・イターン者への支援を行います。
- 公共交通対策として、デマンド(予約)型乗合タクシーの部分的な実証運行を開始します。
- 簡易水道事業としては、佐見地区の整備、杉戸浄水場の老朽化対策を、合併浄化槽は、引き続き10基の設置を計画していきます。
- 道路整備は、改良中路線の進捗を図りながら、新たな改良路線の設計に取り掛かります。
- 住宅整備は、老朽化した衣掛団地の建替えの設計を行います。また、若者、U・イターン者の住宅確保対策として、居住者ニーズに合った間取り1Kや、高齢者に優しい住宅の整備を進めます。
- 尾道松江線が全線開通して1年が経過し、国道54号はその代替道路として重要路線という認識が高まっています。サイクリングロードとしての魅力も高めながら、沿線の活性化を進めます。
- 消防ポンプ自動車1台の更新、防災行政無線をデジタル化して町内全域に屋外放送設備を設置します。

